


読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 佐々木 泰
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円

No.687

★「伊藤忠記念財団 子ども文庫助成事業」
助成贈呈先 決定(2・3頁)

会員の購読料は
会費の中に含まれる



伊藤忠記念財団設立50周年

これまでも、これからも、
すべての子どもたちに読書の喜びを

公益財団法人 伊藤忠記念財団 常務理事

いけべまさかず
池辺昌和

当財団は、2024年9月30日に設立50周年を迎えました。長年にわたり、ご支援、ご協力を賜りました、すべての関係者のみなさまに、深く感謝申し上げます。

1974年の設立以降、「次世代を担う青少年の健全な育成」を掲げ、子どもの読書を支援する事業を軸として活動してまいりました。設立翌年(1975年)から開始した「子ども文庫助成事業」は、子どもたちに読書の場を提供する家庭文庫への助成からはじまりました。その後、当財団は、全国各地で子どもの読書活動を支援する方々を直接訪問し、現場の実情を把握しながら読書環境の改善につながるよう活動してまいりました。2010年から開始した

「電子図書普及事業」では障がいがあるために通常の書籍では読むことが難しい子どもたちのために、マルチメディアADAISSY規格の電子図書「わいわい文庫」の製作・寄贈をしています。また、毎年全国各地の公共図書館などで、障がいのある子どもたちの読書支援について学ぶための「読書バリアフリー研究会」を開催しています。2月1日(土)には、大阪市立中央図書館で開催し、多くの受講者の参加がありました。

「電子図書普及事業」では障がいがあるために通常の書籍では読むことが難しい子どもたちのために、マルチメディアADAISSY規格の電子図書「わいわい文庫」の製作・寄贈をしています。また、毎年全国各地の公共図書館などで、障がいのある子どもたちの読書支援について学ぶための「読書バリアフリー研究会」を開催しています。2月1日(土)には、大阪市立中央図書館で開催し、多くの受講者の参加がありました。

また、毎年3月初旬ごろに、その年度の「子ども文庫助成」の受領者を伊藤忠東京本社ビルにお招きし開催する「贈呈式」は、子どもの読書活動に関わる大勢の方々が一同に会し懇親を深める貴重な場と

なっています。今年度は2月27日(木)開催予定で、今後の子ども読書活動推進の活力になることを期待しています。このたび、財団設立50周年を記念し、2025年1月と2月に記念展示を企画しました。

1月は、1月10日(金)〜2月2日(日)に教文館9Fナルニア国立ルニアホールにて、「伊藤忠記念財団50年のあゆみ」すべての子どもたちに読書の喜びをを」を開催し、当財団のふたつの事業(「子ども文庫助成事業」と「電子図書普及事業」)の紹介を行いました。期間中、1月22日(水)に、「子ども文庫の今とこれから」と題し、講演会も開催しました。2月は、2月5日(水)〜3月2日(日)の期間「TOOCHU SDGS STUDIO GALLERY(港区北青山、伊藤忠ビル隣)にて、「未来につながる子どもの読書」を開催しています。財団の事業紹介のほか、期間中、子ども向けのイベントを4つ開催予定です。(詳細は当財団ホームページをご参照ください)また、2024年に同じく設立50周年を迎えられた東京子ども図書館さまと協働で、これから文庫をはじめようとされている方、文庫活動に関心のある方向けに「文庫の手引き」を製作しました。「文庫の手引き」は2月の展示会場でご覧いただけます。また、2025年4月以降、当財団ホームページからPDFをダウンロード可能とする予定です。

デジタル化や、人口減少が進むこれからの社会においても、子どもたちにとって、読書は価値あるものです。当財団は、これからも「すべての子どもたちに読書の喜びを」提供してまいります。今後も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

〈2024年度〉

伊藤忠記念財団

子ども文庫助成事業

助成贈呈先決定

公益社団法人 読書推進運動協議会が公益財団法人伊藤忠記念財団から事業の一部の委託を受けている「子ども文庫助成事業」の2024年度助成贈呈先が決定しました(計17件)。

本年度の総応募件数は102件。

この助成事業は、伊藤忠記念財団が子ども読書についての啓発、指導に関する民間の有益な活動の目的達成のために行っており、今年度で第50回、助成件数は2925件となりました。

伊藤忠記念財団では2025年度も同助成を実施します。応募期間は、4月〜6月の予定です。応募要項は3月、伊藤忠記念財団および読書推進運動協議会ホームページに掲載予定です。

なお、各道府県読書推進運動協議会、および各都道府県立中央図書館へは、当協議会の依頼状を同封したうえで伊藤忠記念財団よりお送りいたします。

◆子どもの本購入費 助成先一覧(56件)

児童書・絵本などの図書購入費用、紙芝居・人形劇など読書啓発活動につながる実演作品の購入費用として一律30万円を助成。半額の15万円までを読書啓発に関連する講演会・研修会の開催費や参加費、備品の購入(書籍管理備品、実演用備品など)に使用できます。また、同財団が指定する団体からの講師派遣研修参加に助成金の全額を使用できるプログラムもあります。

子どもたちの読書啓発を行っている民間の文庫や実演団体、連絡会などが対象。実質的に草の根運動と見なされる個人・団体であること、3年以上の活動歴があり、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。

- 北海道 たんぽぽ文庫
- 北海道 ふらの・ものがたり文化の会
- 北海道 たかすぶつくクラブ
- 山形県 大曽根小学校読み聞かせボランティア
- 山形県 おはなしくまさん
- 茨城県 横田昭実(個人)
- 埼玉県 Maple Farm

埼玉県 おはなしの会たんぽぽ千葉県 読み聞かせボランティアグループ「読夢の会」

東京都 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業

東京都 おもちゃ図書館

東京都 こころのへや

東京都 一般社団法人 八王子冒険遊び場の会

神奈川県 Blue Hands 一般社団法人

神奈川県 絵本deあい ブックリぼん

神奈川県 おはなしの風

新潟県 おはなしおかあさん

富山県 富山森のこども園

富山県 射水市中央図書館

長野県 飛び出す読み聞かせ会染母んぼー

長野県 増塩理沙(個人)

岐阜県 まめっこ文庫

静岡県 ちいさなとしよかん

愛知県 ひざぶんこ

愛知県 ひいらぎ山の子ども文庫

愛知県 設楽朗読の会あうん

三重県 大安町おはなしの会

くまのこ



おはなしくまさん (山形県)

京都府 特定非営利活動法人 嵐山こども食堂

京都府 桂坂かえて子ども文庫

京都府 ばおばおつながり

京都府 ひなのえほん

大阪府 まちかど図書館33:88

兵庫県 特定非営利活動法人 IPro

兵庫県 お話ボランティア

兵庫県 「おおきな木」

兵庫県 ぐりぐりんメール

和歌山県 特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO

和歌山県 ボランティアグループ

鳥取県 河崎小学校朝読書ボランティア

広島県 社会福祉法人 丘の上福祉会

広島県 図書ボランティア わらつと

徳島県 はらべこあおむし

徳島県 家庭文庫ぽてと

徳島県 認定NPO法人グリーンバレー(ほんのひろば)

徳島県 いちご文庫

福岡県 古賀子ども本の交流会

福岡県 つばき文庫

佐賀県 マザリーフ

熊本県 NPO法人

熊本県 子育て支援ワーカーズ

熊本県 西合志第一小学校

熊本県 おはなしボランティア

鹿児島県 ストーリーテリングの会

鹿児島県 「おはなしの森」

鹿児島県 特定非営利活動法人 虹花

鹿児島県 よみっこくらぶ

イギリス かぶとむし文庫

オーストラリア カンガルー

オーストラリア ポケット文庫

オーストラリア シドニー

オーストラリア ジャカランダ文庫

オーストラリア カニカニ文庫

マレーシア マレーシア子育て

LABO

◆病院・施設子ども読書 活動費助成先一覧(6件)

図書購入費用および読書啓発活動につながる実演作品の購入費用として一律30万円を助成。障がい

のある子どもたちに対する読書支

した活動が見込まれることが必要

大阪府 もみの木文庫

コ)の梅田恵子さん(福岡県福津

山梨県 山梨県立盲学校

絵本や点字絵本などバリアフリー

希望する対象年齢向けセットそ

奈良県 学校図書館図書室

市)の2名です。

山梨県 山梨県立特別支援学校

図書作成のための費用も含まれま

のまま、または、対象年齢向けセッ

サポーター さくらい

◆特別支援学校図書支援

山梨県 山梨大学教育学部附属

す。また、助成額の半額15万円ま

ト全400冊に2000年以降に出版

読書の森

助成先一覽(29件)

特別支援学校

でを、講習会の開催費や参加費お

された図書を中心に選ばれた150冊

福岡県 三筑きらり文庫

すでに開校済みで、学校図書館

山梨県 山梨県立わかば支援学校

購入費助成同様、3年以上の活動

をあわせた550冊より100冊を選ぶこ

福岡県 公益財団法人

運営などを通して読書啓発活動を

長野県 長野県松本養護学校

見込まれることが必要です。

とができます。

長崎県 田河ABC

行っている特別支援学校が対象で

岐阜県 岐阜県立岐阜清流高等

福島県 社会福祉法人 北中央福祉会

宮城県 特定非営利活動法人

宮崎県 あそび場ミナクル

す。学校図書館の蔵書購入、バ

特別支援学校

群馬県 特定非営利活動法人

千葉県 えがおのおへや

沖縄県 みんなのひろば

購入・作成費として一律30万円を

京都府 京都府立八幡支援学校

東京都 特定非営利活動法人

東京都 一般財団法人

アイスランド アイスランド

助成します。半額の15万円までを

和歌山県 和歌山県立

神奈川県 特定非営利活動法人

東京都 特定非営利活動法人

アメリカ にほんごであそぼう

書架などの備品購入に使用できま

みはま支援学校

大阪府 特定非営利活動法人

東京都 杉並区交流協会

中国 こども図書サークル

す。

島根県 島根県立盲学校

熊本県 医療型特定短期入所

東京都 東久留米第二公務員住宅

上海ひまわり文庫

北海道 北海道苫小牧支援学校

島根県 島根県立出雲養護学校

◆子どもの本100冊

東京都 自治会文庫

ニュージールランド

青森県 青森県立

島根県 島根県立浜田養護学校

助成先一覽(28件)

東京都 天良文庫

タズマン子ども文庫

岩手県 学校法人カナン学園

島根県 島根県立益田養護学校

対象年齢別に、「小学校低学年

静岡県 ひろみ文庫

りんごのき

栃木県 栃木県立

広島県 広島県立

向け「小学校中学年向け」「小学

愛知県 NPO法人 次世代健全

子ども図書館

埼玉県 さいたま市立

福山北特別支援学校

校高学年向け「乳幼児向け」の4

東京都 子ひつじ子ども食堂

子ども本の読書啓発活動に長年

東京都 高島特別支援学校

贈呈式は2月27日(木)に、東京都

セット(各100冊)を用意。助成対

京都府 えほんだな

を顕彰する賞です。1984年の

東京都 東京都立

港区の伊藤忠商事東京本社ビルで

象は「購入費助成」病院・施設子

大阪府 ぴんぼん文庫

第1回以来、昨年までに90名に贈

石川県 石川県立七尾特別支援

開催される予定です。

ども読書活動費助成」と共通。活

大阪府 矢田東地域まちづくり

られています。

福井県 福井県立

嶺南東特別支援学校

動歴は問いませんが、今後も継続

研究会

本年の受賞者は、「びわこビブ

福井県 福井県立

大府

地域交流サロン・

り才道場」の北村恵美子さん(滋

福井県 福井県立

ぶらつと都島

賀県彦根市)、「おはなし会 芸っ

嶺南東特別支援学校

■第59回 新風賞

成瀬は天下を取り続ける？ 圧倒的得票で新風賞を受賞

各地域を代表する書店のネットワークである書店新風会主催の「第59回 新風賞」贈賞式が、1月8日(水)、東京都新宿区のハイアットトリージェンシー東京で行われた。

新風賞を受賞したのは、宮島末奈さん『成瀬は天下を取りに行く』(新潮社)。また、特別賞が杉子女王殿下『赤と青のガウン オック スフォード留学記』(PHP研究所)に贈られた。

同賞は、「この1年で書店店頭
の活性化に貢献した作品」として、会員書店員の投票で選ばれ



受賞者メッセージを代読する新潮社 佐藤社長【左】
PHP 研究所 瀬津社長【右】

る。今回は、宮島さんのデビュー作にして、本屋大賞ほか15冠を達成した『成瀬は天下を取りに行く』が、圧倒的に票を集めての受賞となった。また、『赤と青のガウン』は、専業作家ではない著者であること、文庫化で多くの読者の関心をひきつけたことが高く評価されて特別賞に決定した。

新潮社の佐藤隆信社長は、「発売当初から、無名の新人のデビュー作にもかかわらず、たくさん並べてもらいました。書店でいまだ売れているとの声をもらうとうれしく、今後も末長いご愛顧をお願いします」との宮島さんからの感謝のメッセージを代読した。

PHP 研究所の瀬津社長も、「子どものころから本の虫で、さまざまな知識と出会える書店は身近なワンダーランド。自分の著作がその中に並べられているのを見るとうれしく、誇らしい気持ちになります。ポップを見るといつも心が踊り、温かい気持ちに満たされます」との杉子女王殿下のメッセージを代読した。

■新年名刺交換会

出版界の課題に業界をあげて 取り組む姿勢を再確認

日本出版クラブは1月7日、2025年「出版関係新年名刺交換会」を開催。東京都千代田区の出版クラブビルに、出版社、取次会社、関係団体などから約350人の参加者があった。

会の冒頭、日本出版クラブの野間省伸会長(読書推進運動協議会会長)があいさつ。昨年をふり返るとともに、出版界の現状について、流通、輸送や書店の減少など

さまざまな課題があるが、解決に向けてみなさんと力をあわせて、チャレンジしていきたいと語り、乾杯を行った。

当日受付で配布された「出版クラブだより」には、日本書籍出版協会・小野寺優理事長、日本雑誌協会・宮原博昭理事長、日本出版取次協会・近藤敏貴会長、日本書店商業組合連合会・矢幡秀治会長の新年のあいさつが掲載され、そ



あいさつをする日本出版クラブ
野間会長

それぞれの立場から出版界の課題についての認識と、今後の展望と施策を語った。
各団体代表の記念撮影の後、立食形式の懇親会が行われた。

■第28回 図書館を使った調べる学習コンクール

関心・疑問を図書館資料で じっくり調べた作品を審査・表彰

公益財団法人 図書館振興財団(東京都文京区)が主催する、第28回「図書館を使った調べる学習コンクール」は、2024年12月26日(木)、同財団で最終審査会を行い、2025年1月16日(木)に、財団ホームページ上で結果を発表した。

入賞は3団体、32作品。入選は優良賞39作品、奨励賞275作品、佳作1385作品の結果だった。

読書推進運動協議会は12月11日(水)に事前の個人審査会にも出席。「調べる学習」部門の小学生の部(中学年)審査を担当した。このカテゴリーからは、文部科学大臣賞として、千葉真袖ヶ浦市立平岡小学校4年の鈴木克磨さんによる「青信号『あお』とよぶのに緑色？」

2024年9月9日〜10月7日の募集期間に、前回を上回る合計12万3541作品の応募があり、

「青信号『あお』とよぶのに緑色？」



熱心な審査が行われた
最終審査会の様子

が選ばれた。

また、一定の地域を基盤とした「地域コンクール」を対象とする総務大臣賞には、宮城県宮谷市教育委員会の「富谷市図書館を使った調べる学習コンクール」が表彰された。

表彰式は、3月8日(土)に、東京都内で開催予定とのこと。

■第40回 梓会出版文化賞ほか

残すべき本、知らせるべき知識… 出版の魅力をこれからも

一般社団法人 出版梓会は「第40回 梓会出版文化賞」「第21回出版梓会新聞社学芸文化賞」の贈呈式を1月27日(月)、東京都千代田区の如水会館で開催した。

今回、梓会出版文化賞を受賞したのは北海道の亜璃西社(ありすしや)、『さっぽろ野鳥観察手帖』

『北海道の縄文文化 こころと暮らし』などの北海道ならではの出版企画に加え、海上交易と港湾の歴史を俯瞰する『世界港湾史』など視野の広い出版活動が高く評価された。受賞者あいさつで社長の和田由美さんは、「次世代への橋渡



下中理事長と受賞者、選考委員の記念写真

しとなる名誉ある賞をいただき、とてもうれしい。北海道でガイドブックを作っていたが、どうしても本が作りたくて、1988年に亜璃西社を創業した。これからは北海道の歴史や文化を掘り起こして本を作っていきたい」と述べた。

出版文化賞特別賞は、東京化学同人。1961年以来、化学だけではなく、理工書全体にまたがり「科学者の知」を伝えてきた。石田勝彦社長は、「初代社長から受け継いできたことは、『幼稚な知性をきらう』『知識を得たものとしての責任をはたす』。科学技術

について事実をもとに考える知性、知らせる責任を備えた人間を増やすことが平和につながる。それは出版活動の根つこの部分でもあります」とあいさつをした。

新聞社の文化・学芸部長、書評面編集者らが選ぶ新聞社学芸文化賞は、寿郎社(じゅうろうしゃ)が受賞。こちらも北海道の出版社で、北海道地域史や道内の訴訟や事件などを紹介するノンフィクションを出版してきた。あいさつで代表取



出版クラブビルでは受賞社の書籍とあわせ各社の日常も展示中(3月31日まで)

締役の土肥寿郎さんは、「25年、ほぼひとりで仕事をしてきた。出版はビジネスではなく博打。手練手管で切り抜けてきた。出版にはそれだけの魅力がある」と語った。

学芸文化賞特別賞は、ユニークな視点の学術書・資料図書を出版している美姿書房出版。代表取締役の奥村侑生市さんとともにあいさつに立った、昨年夏で一線を退いた顧問の平澤公裕さんは、「後世に残すべき本を作りたいと思ってきた。今回の受賞は私の最後の一年の仕事への評価となり、とてもうれしい」と語った。

梓会の下中実都理事長は、「出版社はみな、本を残す、伝える仲間。『一緒にやろうよ』をテーマに、書店のフェアや図書館への働きかけなど取り組みたい」と語った。

■ザ・キャビンカンパニー「童堂賛歌」

「こどもの読書週間」ポスターが 待ち遠しくなる? 美術展

「こどもの読書週間」ポスターに書下ろしイラストを提供いただいている、ザ・キャビンカンパニー

の「大絵本美術展『童堂賛歌』」が、大分県立美術館(大分県大分市)で4月13日(日)まで開催されている。

この美術展は、昨年7月の平塚市美術館(神奈川県)からはじまり、足利市立美術館(栃木県)、千葉市美術館(千葉県)を巡回してきた。日本絵本賞大賞受賞の『ゆ

うやけにとけていく』をはじめとした絵本の原画だけでなく、立体作品や映像作品、アトリエの様子、そして「こどもの読書週間」ポスター原画も展示されている。

大分県はザ・キャビンカンパニーの地元ということもあり、関連イベントも盛りだくさん。美術展初日の2月7日(金)には、おふたりによる絵本の読み聞かせとサイン会が開催された。今後、3月7日(金)・14日(金)・21日(金)・28日(金)には「ザ・キャビンカンパニーによる公開制作」が、3月16日(日)には「スペシャル・トークイベント『童

堂賛歌ができるまで』」が予定されている。美術展の期間中、休日はなし。

そのほか、JR大分駅改札への大型バナーの掲載も実施。連携企画として、ザ・キャビンカンパニーが美術を担当するダンス作品『オバケッタ』が、4月5日(日)にEtnico音の泉ホール(大分市)で上演される。

開館時間、イベント参加方法など詳細などは大分県立美術館サイト(<https://www.opam.jp/>)を参照のこと。



「童堂賛歌」 チラシ

優良読書グループの歩み (2)

2024年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

仙台をつなぐ 文庫の会

代表者 田澤 敦子

宮城県仙台市

〈推薦〉
宮城県読書推進運動協議会

仙台をつなぐ文庫の会は、公共図書館と連携し、会員相互の交流と研鑽を深め文庫活動を盛んにし、子どもたちと地域住民のためによりよい文化環境をつくることを目的としています。

1973年秋に、会は産声をあげました。当時、仙台では親子読書推進のため、いろいろな研修会が開催されていました。そのなかで小河内芳子さん、斎藤尚吾さんのお話や、石井桃子さんの著書「子どもの図書館」など、いろいろな影響を受けて市内各地に27の文庫ができました。また、図書館で子どもたちの読書推進活動のために、30冊の本の団体貸出がスタートした時期でもありました。



大人気の「にっこにこ赤ちゃんひろば」

そのなかで文庫間の情報交換や研修会の開催、市への文庫に対する補助金の要望など、たくさんの声があり、27文庫で文庫の会を発足することになりました。今年で50周年になります。

この50年の間に仙台では100近くの文庫があつたのですが、世話人の家庭事情・高齢化・子どもたちの環境変化のために閉じた文庫も多く、今も活動している13文庫が現在の会員です。その他に個人会

員がいます。

文庫の会では、読み聞かせなど子どもの本に関わる活動をしている大人のための研修・交流会を年に2〜3回開催し、会報で情報発信をしています。それとともに図書館での月1回のおはなし会、年2回のおはなしパーク、秋には児童文学者講演会を共催、夏には「にっこにこ赤ちゃん絵本のひろば」の協力を行っています。仙台文学館での夏のイベントのおはなし会にも参加しています。

各文庫では、週1〜2回、月2回など活動日はさまざまですが、家庭や地域の集会所で子どもの本の貸出を中心に、本や紙芝居の読み聞かせ・手遊び・手づくり工作を行っています。地域の小学校や児童館でおはなし会を行っている文庫もあります。活動しているなかで子どもたちが「楽しかったよ! また、お願い!」と笑顔で話しかけてくれるのが、いちばんの励みになります。

これからも子どもたちが笑顔になる本との出会いをつなぎながら、13文庫、手をつないで楽しく活動が続けていきたいです。

文庫おひさまはらっぱ

代表者 飯森 博子

石川県金沢市

〈推薦〉
石川県読書推進運動協議会

文庫おひさまはらっぱは、図書館まで遠いので「近くに子どもたちと絵本を楽しめる場所があつたらいいね!」と、1991年4月、地域の集会所を借りて、6人の仲間とスタートしました。発足当時は、毎週月曜日、当番を決めて運営していました。

その後、学校の1室を借りて隔週土曜日に、学校帰りの子どもたちに本の貸出やおはなし会をしました。毎回70人もの子どもたちが本を借りていきました。本が足りず、図書館から団体貸出を受け、多くの子どもたちに絵本に出会ってもらい、学校図書館につなげたという思いでした。

現在は金沢市八日市の代表者宅に家庭文庫として開催しています。開設から33年経ちました。

毎月第3土曜日の午前、自宅を開放し、本の貸出・絵本の読み聞かせ・わらべ歌・ろうそく・おはなし・簡単な工作や季節の



ぬいぐるみと一緒に読み聞かせを楽しむ

行事を大切に行っています。

春や秋は近くの公園に出かけていき、風にあたりながら絵本を読む「お出かけ例会」。夏の毎年恒例「流しそうめんとおはなし会」は、かき氷もあり大人気です。10月の「文庫おひさまはらっぱハロウィン」では、子どもたちもママたちも仮装して、近所のお家回り「トリックオアトリート」と言い、お菓子をもらいハロウィンクッキーを作ります。自分で作った思い思いの形のクッキーを食べべて絵本を楽しみました。至極の時間でした。12月は「文庫クリスマス会」。1家族1芸1品!! 絵本・歌・ピアノ演奏・手品、自分で考えた出しものを披露します。子ども

もたちの発想はほんとうにすばらしく、「自分で考えるわくわく感」

がみごとです。ろうそく~~を~~をつけておはなしもし、クリスマスの絵本も読みます。3月は「自分だけの絵本作り」。1年間で楽しかったこと、思い出に残ったことを絵本にして発表します。文章を考え、その文にあつた絵を描きます。8ページだでの絵本は、どれもすばらしく感動をよび、文庫に携わる者への心の贈りものとなります。

コロナ禍は、例会が開催できず集まれず、工夫して文庫を継続しました。読み聞かせや絵本の紹介をオンラインで発信しました。文庫おひさまはらっぱで読んだ絵本が、子どもたちを笑顔に！そしてその笑顔が宝ものです。

京都語り部の会

代表者 大西まさ子
京都府京都市
京都府読書推進運動協議会

京都語り部の会は、1986年にすでに始動していた大阪の「なにわ語り部の会」の禪定正世さんを講師に迎え、「お話の語り部講座」を開き、修了後、京都にもお

はなしの文化が根づくようにと発足しました。

「おはなしを語る人と聞く人が共に信頼しあつて目には見えない豊穡を作りだし、楽しみを共有できる場があります。そんな場を大人や子どもの周りにいっぱい作りたい」という理念で、素話によるおはなしを語っています。

1992年から京都市伏見中央図書館のえほんコーナーでおはなし会をしています。なかなか素話は受け入れ難いと言われますが、歴代の館長さん、司書さんの支援は揺らぐことなく、語りの場を作つていただいています。コロナ禍のときもマスクや人数制限などを工夫して、おはなし会をするこ

とができました。ある日、まだハイハイもできない赤ちゃんがえほんコーナーに寝ころがって顔を語り手に向け、じいっと聴く姿を何度も目にしました。児童文学者の渡辺茂男さんが著書で、息子さん夫婦が手づくりのプリガフオーンで胎教をしたら、泣き出した孫の鼓子さん(生後3〜4か月)にその絵本を読むと泣き止み、じつと聴き入る光景を羨ましく眺めたと記されていますが、まさにそのものでした。お母さんが上の子に読み聞かせて

いたおはなしを胎内で聴き、人が紡ぐ柔らかくやさしいことばが伝わつていたのです。お母さんのお腹の中からの読書はじめてです。図書館には普遍的に何世代にも親しまれてきたレジェンド本と、新しい感覚で楽しい本が一緒に並んでいます。好きでお気に入りを選び時間は、子どもたちが心の力をつける場でもあります。私たちの素話が想像の世界に広がつていく一助になればうれしいです。

小さな会は図書館での定例おはなし会や、年に2〜3度開催して好きな本やぜひ聴いてほしいおはなしを語るミニおはなし会、声かけでいつでもどこでものおはなし会、仲間づくりの講座を開催することを続けたいと願っています。

おはなしボランティア積み木の会

代表者 竹中 美子
岡山県岡山市
岡山県読書推進運動協議会

本会は「視覚障害者のためのテープ図書づくり講座」の受講生を中心に「瀬戸町朗読奉仕『積み木の会』」として、1982年に発足しました。その後、図書館や

児童館、幼稚園や保育園、障がい者施設や高齢者施設などから、読み聞かせの要請が増えたことから、名称を「おはなしボランティア『積み木の会』」に変更して、現在にいたります。

子どもだけでなく、多様な年代の多様な人々に楽しんでいただくことを模索し、作りあげたのが、両手をいっぱい広げたぐらいの大きさの大型紙芝居(31作品)と大型ペープサート(6作品)です。上演時にはその大きさと迫力に驚くとともに楽しんでいただいています。これらの作品は夏のボランティア活動に参加した中高生と会員が一緒に制作します。完成した作品を食い入るようにつめる子

どもたちの姿や笑顔を想像しながら、和気あいあいと仕上げます。ほかにも中型紙芝居、中型ペープサート、パネルシアターなど多数の手づくり作品があります。定期的に訪問する図書館や児童館、こども園や保育園のほか、要請に応じて小学校や支援学校、障がい者施設や高齢者の集まりなど活動場所は多岐にわたります。毎月1回の定例会では、打ちあわせや準備、練習を行い、本番を迎えます。昨年度の活動回数は124回、参加会員数は延べ470名でした。

42年間、活動を継続してきた結果、積み木の会の読み聞かせを聞いた子どもたちが大人になり、その子どもがまた積み木の会の読み聞かせに参加するなど、地域に根づいた活動になりました。会員もつねに20名程度を維持しています。成長する子どもたちを長い間見守っていけることはとてもうれしく、活動を継続するモチベーションのひとつになっています。大人の世界だけでなく、子どもの世界まで忙しくなった現在、優れた絵本や紙芝居、ペープサートなどを通して、ゆつたりとあなたかい時間を過ごし、子どもから大人まで、心豊かな生活を送るお手伝いができたらと願っています。



中高生ボランティアと一緒に作った大型ペープサート

「アフリカ子どもの本プロジェクト」設立20周年

子どもの本からアフリカを知って楽しむ

「アフリカ子どもの本プロジェクト」は、2024年12月6日(金)7日(土)に東京都千代田区のブックハウスカフェで設立20周年記念「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本」展とトークイベント「アニアの村に図書館をつくる」講師 福本友美子さん(翻訳家)、「どうしてアフリカ? どうして図書館?」プロジェクトを続けながら考えたこと」講師 さくまゆみ



ブックハウスカフェでの展示風景

紙芝居文化推進協議会「手づくり紙芝居コンクール」

子どもから大人までが応募！ 実演審査で大賞を決定

紙芝居文化推進協議会と神奈川県立青少年センターは、「第24回手づくり紙芝居コンクール」の入賞作品22点を発表し、2024年12月1日(日)に実演審査会を神奈川県立青少年センター(神奈川県横浜市)で開催して、大賞、横浜市長賞を決定した。このコンクールは、神奈川県立図書館「神奈川県手づくり紙芝居コンクール」を引き継ぐ形で、1月26日(日)には、コン

こさん(翻訳家)を開催した。「アフリカ子どもの本プロジェクト」は、アフリカ・ケニアに設立したふたつの子どもの図書館を継続的に支える、識字や楽しみのための本を必要としているアフリカの子どもたちへ本を届ける、日本の子どもたちにアフリカの文化やアフリカの子どもたちのことを伝える、を目的として活動。今回展示した「アフリカを読む、知る。楽しんで」を参照のこと。

クール応募作品を作者自身が演じる「手作り紙芝居ライブ」が、神奈川県横浜市の横浜市歴史博物館で開催された。会場には入賞作品のコピーも展示され、来場者の注目を集めた。

横浜市歴史博物館は、昭和時代の「街頭紙芝居」を多く所蔵しており、毎月一回、街頭紙芝居の上演も実施。この日も、横浜市の指定文化財の街頭紙芝居作品(レプリカ)が演じられた。



紙芝居文化推進協議会ホームページQRコード

事務局報告(1月)

- ☆5日 事務局休業
☆6日 機関紙「読書推進運動」第686号入稿
☆7日 出版クラブ新年名刺交換会出席
☆7日 機関紙「読書推進運動」第686号責了
☆9日 2024年度子どもの読書推進会議第2回総会案内送信
☆10日 2024年度子どもの読書推進会議第2回幹事会
☆15日 機関紙「読書推進運動」第686号出来
☆20日 2024年度第3回理事会案内郵送
☆22日 日本児童図書出版協会来所。絵本ワールドの件打ちあわせ
☆23日 2023年度全国読書グループ総覧(総覧部)入稿終了
☆23日 第67回「子どもの読書週間」ポスター原画完成
☆23日 原画「子どもの読書週間」後援依頼を7団体に郵送
☆26日 「手作り紙芝居ライブ」取材(横浜市歴史博物館)
☆27日 第40回 協会出版文化賞・第21回 出版協会新聞社委文化賞 出席(如水会館)
☆28日 2024年度 第4回常務理事会
☆28日 第67回「子どもの読書週間」ポスター、印刷会社に入稿
☆31日 2025「野の森親子ブックフェスタ」出展者説明会



読書推進運動協議会 X (旧 Twitter)

編集部&事務局のひとこと

● 編集部&事務局のひとこと
● たいだいま、『2023年度全国読書グループ総覧』の刊行に向け、大量の刷り出しと新規原稿作成に追われています。作業量に加え、間にあわなかったらどうしようと思案もつりますが、全国多くの読書グループのお前に励まされて、ひたすら作業をしております。
● そんな日々、もうひとつ心の支えは、学生時代の思い出です。私のいたゼミでは、毎年2・3月は、3月のゼミ合宿に向けて、ゼミ員の「レポート集」の制作に励んでいる時期でした。ゼミ員は30名ほどなので、少人数のオンデマンド印刷などなかった時代、大学の印刷室のリソグラフで、すべてのページ(だいたい1冊が300ページ弱だった)を、ゼミ員総出で両面印刷していました。まだパソコンの普及率が低く、手書きとワープロの原稿が混在し、ノンブルは手書きで編集委員がふる。写真も紙焼きなので、使いたい写真をコピーして原稿に切り貼りするなど、ほんとうに手づくりでした。
● 大学内で製本はできなかつたので、印刷した本文ページと表紙を順番に並べて段ボールに詰めて製本所へ。納品はぎりぎり合宿での読みあいに間にあう、というのがお決まりのスケジュール。印刷会社に用意してもらった「グループ総覧」の刷り出しの量にため息をつきつつ、「自分で印刷しないだけ、まだいいか」と、みずからを慰めています。なお、当時のゼミ員たちの今年新年の話題は「五十肩」、あのころのエネルギは、どこにいったのかしら? (伸)